

# 思春期の月経前症候群 (PMS) / 月経前不快気分障害 (PMDD)

武田 卓

## Summary

月経前症候群(PMS), その重症型の月経前不快気分障害(PMDD)は月経前の不快な精神身体症状を特徴とし, 女性のQOLを著しく損なう。月経困難症が広く認知されているのに対して, PMS/PMDDは一般社会だけでなく, 医療サイドでの認知も不十分である。特に, 思春期においては月経困難症ばかりに注意が払われて, PMS/PMDDにはほとんど注意が払われていない。本稿では, 思春期におけるPMS/PMDDに関して概説したい。

## Key words

月経前症候群(PMS)  
月経前不快気分障害(PMDD)  
欠席  
リスク因子  
低用量エストロゲン・プロゲスチン配合薬(LEP)

## PMS/PMDD とは？

月経前症候群(premenstrual syndrome ; PMS)は, 黄体期に続く多彩な精神症状・身体症状で月経開始4日以内に減弱・消失することを特徴とする。PMSは産婦人科から, 月経前不快気分障害(premenstrual dysphoric disorder ; PMDD)は精神科からの診断であり, もともと別々の疾患概念であるが, 両者をまとめた premenstrual disorders (PMDs) という概念が提唱されるようになり, 2008年頃より International Society for Premenstrual Disorders (ISPM) が中心となって, 疾患概念と研究方法の統一化が図られるようになってきた<sup>1)</sup>。そのなかでは, PMSのうち精神症状が主体で強い場合をPMDDとし, 両者を連続的に捉えるようになってきた(表1)。2018年6月に発表された新しい国際疾病分類第11版(ICD-11)において, 両者が婦人生殖泌尿器系疾患として併記されたのも, このような流れを受けたものと考えられる。

## 思春期における現状

思春期女性のPMS/PMDDについては, これまでほとんど検討がなく, われわれは女子高校生を対象にして, 自記式アンケートを用いた実態調査を実施した<sup>2)</sup>。その結果, 中等度~重度のPMS疑い例が11.8%, PMDD疑い例が2.6%認められ, 高校生のほうが成人に比較して有意に重症度が高い結果となった(表2)<sup>2)3)</sup>。われわれの

Takashi Takeda

近畿大学東洋医学研究所所長・教授